

もど子と人婦

號五第 卷貳拾第



行發會ルベールフ

第二十卷第五號目次

ころもがへ

フレイベルに就て

大瀬甚太郎

フレイベル主義と婦人

倉橋惣三

花と子供の興味

菅原教造

子供の衛生

石塚保吉

研究録

空、風、雨、雷に對する幼兒の想像

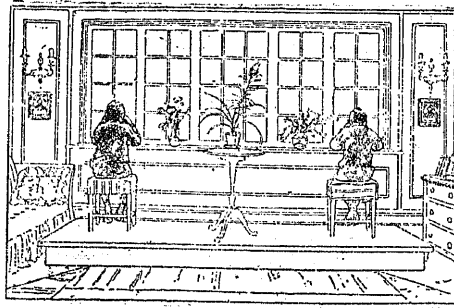
静岡幼稚園

新入園當時と一年後との幼兒の心理狀況の比較調査

森の幼稚園(五)

城東小學校附屬幼稚園
S K 生

雜錄



婦人と子ども

第十二巻第五號

ころもがへ

うれしきは子供の着物の軽くなりゆくことである。重くる
 しい厚綿布子ぬぎすて、きびくとした初袷に、男の子も
 女の子も、けさ一段の元氣がある。保育室の窓の外の葉櫻に
 反映て、青味を帯びて漲り込む五月晴よ。昨日も今日も手を
 ひきつれては、野へ、森へ、丘へ、青葉の風に袂が軽い。走
 れよ、飛べよ、子供達よ。疲れて森の草に寝れば、汗えく
 とした葉越の空が、高く疲れを吸ふて呉れる。渴いて泉の傍
 へゆけば、翠を浮べて湧く眞清水が、つめたく濁きを癒して
 呉れる。

フレーベルに就いて

(フレーベル會第十七回總會に於ける講演)

東京高等師範學校教授 大瀬 甚 太郎

一、序 言

私は師範教育といふことには關係して居りま
すけれども、幼兒の教育といふことに就いては直
接に關係致しませんので、餘り申上げることゝ御
座いませぬ。然しこれまでに教育者の傳記に就い
て多少取調べましたことから、今日はフレーベル
の傳に就いて少しく申述べ度いと思ふのでありま
す。

然し皆様は既にフレーベルの殘して行つた事業
に關係をせらるゝ方が、若しくは其れに興味を感
じて居らるゝ方々で御座いますから、フレーベル
とはどういふ人であつたかといふことは十分御判
りになつて居らるゝことと思ひますし、其れ以上

に出て別に珍らしい事を申上げやうもありません、且つ既に史上の人物の傳記である以上は、それを自分勝手に考へ出したり勝手に作りかへたりするといふことは許されないので、たい幾分、見方を新しくして考へて見るといふ外にはないのであります。

二、不遇の人

フレーベルは生存中に於いては、いろ／＼に評判された人であります。或る人々からは教育上の天才であるといふ稱を受けて居るかと思へば、一方には何も知らぬ、危険な人物であると云ふやうな批評が盛んに傳へられて居たのであります。そして、どちらかと云へば、上の人からは餘り善く

云はれなかつたので、その爲めに絶えず不遇な道を歩んで居たのです。然し其の殘して行つた事業及び思想は、今日の思想に接近して居る點が非常に多いのであります。今日の新しい企であるとか、新しい思想であるとか云はれて居る事柄の多くは、フレーベルの殘して行つたもの、中に含まれて居るものと云つていいのであります。

天才と云ふものは、周囲の感化によらず、自分で自分の行くべき道を發見し、開拓して行くものであると云はれて居りますが、フレーベルに就いてこれを見ますと、勿論、其の天才による處も多いのであるけれども、一方に其の境遇が、いろいろな發達の助をなして居るのであります。

三、少年時代

フレーベルは幼少な時分から、自然を愛する情が非常に深かつたのです。もと／＼フレーベルの生れましたチュリンゲンと云ふ地は、獨逸の中で

最も風景に富んだ處でした。フレーベルが自然を愛する心の深い處へ、自然の風景がよかつたのですから、自然を愛する心を益々助長せしめたのであります。

又一方に於いて、家庭の事情がフレーベルの自然に對する愛慕を強からしめたのであります。彼は生後九ヶ月にして母を失ひ、其の後四才の時に繼母が來ましたけれども、餘りフレーベルを愛せなかつた爲めに、家庭の愉快といふことは殆んど味ふことが出来なかつたのであります。其の悲しみを補はんが爲めに、自然を愛したといふことも、フレーベルを考へる上に大切な事柄であります。然し自然を愛して居たといふことは、獨りフレーベルの異とする處ではありません。普通の子供にも能く見る處であります。たゞ茲に注意すべき點は、普通の子供は何か珍らしいものに接しますと自分を忘れて其れを追ひ求めて行くといふのが

常でありますのに、フレーベルはこれと非常に趣きを異にして居たのであります。幼にして母を失ひ、いろ／＼な風波に遇つて來ました處から、無邪氣といふことが極めて少なかつたのであります。子供らしい處が失はれて居たのです。年の割にませて居て、常に何かを考へて居るやうになつて居たのであります。殊に自己の内心といふことに考へを及ぼして居たのです。

一般に子供といふものは、或る事に悲しみを持つて居ましても、それが何の爲めに悲しいのかといふことに氣をつけないものと思はれます。然るにフレーベルはこれがあつたのです。今、自分の持つて居る悲しみは、何の爲めの悲しみか、何の爲めに悲しいのかといふやうな、自己の内心にまでも立ち入つて考へて居たのであります。さういふ風な性情でありましたので、遊んで居る中にも、自己内心の總をさらけ出して、無邪氣に遊んで居

るといふ處がなく、何かを隠して居た。さういふ事で父は學問のある人でしたけれども、遂にフレーベルを了解するに至らず、極めて冷淡に取扱はれて居たのであります。早くに母を失ひ、殘つて居る父とは、また冷淡な間柄であつたといふことは、恰度兩親を失つてしまつたと同じい譯であつたのです。フレーベルが總の事柄に考へを用ゐて居たといふことは、さういふ境遇から養はれたものであります。

四、少年時代の思想

さういふ境遇でありました爲めに、自然界に對しても單に自然の風景を追ひ求めて行くといふだけではなく、其の中に何かを考へて居たのであります。其の結果、遂に自然界の諸現象は、外形に於いて種々様々であるけれども、然しめちや／＼のものではない、ある點に於いて一致して居るものである云ふことまでも考へるやうになつて來ま

した。フレーベル自身の云ふ處によりますと、十歳前後に於いて、既にさういふ事を考へて居たのであります。

又、一方に於いて、自分の内心を考へる結果として、人間の心には、いろ／＼なことが起る、悲しいことも、楽しいことも、苦しい事も起つて來るけれども、然しさういふ様な事柄が當然歸着する一の點があるのではなからうか、といふことを漠然と考へ、そして其の一の歸着點に向つて努力することが、人間の最も高尚な目的ではあるまいかと云ふやうな考へを持つて來たのであります。そして自然界の諸現象を明瞭にして、其の歸着する點を明にするといふこと、自分の内心の状態を極めて、其の歸着する一點を十分明にして行かしようとする慾望が生じて來たのであります。

この二つの考へが、フレーベルの全生涯を通じて残つて居るのである。又、彼れの總の努力はこの

二つの目的の爲めであつたと云つてもいいので、この二つの希望があつた爲めに、様々の仕事をし

五、青年時代

青年時代のフレーベルは非常に氣の移り變りの早い性質を有つて居たと言はれて居ります。然しこれも、要するに前に述べた二つの目的が然らした結果に外ならないのであります。

十八才の時に、彼れはイェナ大學に入つて、自然科學を研究し、或は土地の測量、或は園藝、或は建築といふやうに、常に其の仕事を変へて居たのであります。其の頃に一番上の兄がフレーベルに對して、さう職業ばかり變へて居てはいかぬと云つて注意を與へました。其れに對するフレーベルの答へに「私は自分の内心を完全にする爲めに努力する。其の努力の中に自分を發見することが出來ます。」と云つて居ります。

第二番目の兄は、フレーベルを了解して居たので、フレーベルが放浪生活をして居る際には、常に獎勵の言葉を與へて居たのであります。その中の一に「常に自己に忠實に、且つ斷乎として自己内心の命に従へ。男子は自己の目的の爲めに奮闘するものでなければならぬ。男子らしく進め、汝の爲めに生ずる總の迫害と戦へ。而して落膽する勿れ、何時かは彼岸に達するであらう。」と云はれて居たのです。又、フレーベルが教育家になる少し前のことで、フランクフルトといふ處へ建築をしに行かうとした時に、友人へ出した手紙に「運命は君には忽ち一家を與へ、且つ愛すべき妻を與へた、然し同じ其の運命は我に對しては、何時までも我れを追ひまはして居る。然し我が精神界に對して自分を知らむが爲めに、さういふ運命を與へてくれたとも云ひ得る。君は人にパンを與へむが爲めに働き、我れは人に彼れ等自分を與へる爲

めに働く。」と云つて居るのであります。人に彼れ等自分を與へると云ふことは、己れを知り、己れを明にして、己れと矛盾せぬやうな生活に入らせるといふことであります。

六、教育家となれる動機

斯の如く、様々な職業に従事しましても、一つとして自分の満足を其の中に見出すことが出来なかつたフレーベルが、フランクフルトへ來て、其の地の模範學校長に面會して、いろいろな話をいたしますと、學校長はフレーベルに、お前は教師になる考へはないか、教師になるならば直ぐに此の學校へ入れて、教職を與へやうと云はれたので、フレーベルは遂に其の學校で教鞭をとることになつたのであります。

フレーベルは此の時に生れて初めて教室に入ることになつたのであります。然しフレーベルは、この仕事か、これまで幾年の間、常に自分の求め

て居た仕事のやうに感じられたのであります。フ
レーベルの受持つた兒童は九才から十一才までの
生徒でありましたが、其の教場に入つたときは、
非常に愉快を感じたのであります。久しい間自
分の失つて居たものを今發見したやうに感じられ
たのであります。當時(一八〇五年)に送つた兄へ
の手紙に「私は初めて教師の職についたのである
けれども、然しそれが少しも新しいもの、やうに
思はれない。既に永い間其の職に就いて居たもの
、やうに、又この職の外には何も求めて居なかつ
たやうに思はれます。然し教師として此の學校に
入らうとは夢にも思はないことでもあります。私の
受持つ時間、如何に愉快に過ぎるかは想像が
出ない位であります。私は總の子供を愛し、子供
と共に遊ぶ時間を待つて居る位であります。」と云
ふことを書いて居ります。

詰りフレーベルは自分を完全にすることを考へて

居た、其の爲めにどの職にも安心することが出来
なかつた。最後に人を高尚にする教育の職に就い
て、初めて自己の安定を見出したのであります。
人を高尚にするといふことは即ち自己を高尚にす
るといふことに外ならないのであります。

七、ベスタロツチの感化

フレーベルが教職についてからは、主としてベ
スタロツチの感化を受けて居ります。教育上の高
尚な思想はベスタロツチに負ふものであります。
フレーベルは教師になつてから二週間程の休暇を
利用して、スイツツルへ行き、ベスタロツチに就
て教育上の問題を研究しました。其の別るゝに際
してベスタロツチはフレーベルの手帳に「人と云
ふものは、非常にはげしい燃ゆるやうな思想と、火
のやうな熱心とを以つて自分の道を開け。而して
其の道を以つて自己を完全にするには黙つて働
け。」と書いて贈つたのであります。

その後三年程後にフレーベルはフランクフルトの學校を辭して、ホルツハウゼン家の三人の子供を預つて再びベスタロツチの元へ行つたのであります。今度は久しく永くベスタロツチの許に止つて居りました。フレーベルは人の精神といふことに考へを及ぼして居た上に、ベスタロツチに就いて研究した事柄が、益々其の根底を送り上げて來たのであります。

フレーベルはベスタロツチの處に居る間に、既に遊戯の價値に就いて考へを及ぼして居たのであります。そしてベスタロツチの學校の特色の源は其の點にあるといふことを考へて居ました。かういふ風にフレーベルは教育上の天才を持つて居た人であることは勿論でありますが、然し一方に於いて周圍の感化とベスタロツチの感化とに與る點が多いのであります。

八、フレーベルの特質

然しながら、フレーベルをして大教育家たらしめたことは、フレーベルの特に有して居た性質によるものであります。其の性質を次のやうに云ひ現すことが出来やうと思ひます。

一、フレーベルは常に愛情に強い人でありました。人類に對する愛情ばかりではなく、個々の人に對する愛情にも富んで居たのであります。早く母を失ひ冷淡な家庭に育ちましたけれども愛情と云ふものには極めて豊富な性質を有つて居たのであります。冷淡なる兄に對しても、又、繼母の子供に對しても、決してこれを疎するといふやうな事がなかつた。兄の逝くなられた後には、其の子供を引き取つて、自ら其の教育に力を盡くし、模範家庭を造りこれと共に他の子供を預つて教育をするといふ程に、人に對する愛情に富んで居たのであります。

二、常に理想を追ひ求むる性質でありました。

これは前の御話で略盡して居やうと思ひますので、再び説明の要はありますまい。たい特に申上げて置き度いのは、其の理想といふ内には、外面の名譽であるとか、物質上の利益であるとかいふやうなものが、少しも混じつては居ないと云ふこととであります。初めには自分を完全にするといふこと、後には、どうすればこれが出来るか、それには人を完全にするといふこととであると考へて居たのであります。

三、フレーベルは自分の良いと思ふ事は、どこまでも遂行するといふ性質の人であります。彼れがいろ／＼な職に従事したといふことも要するにこの性質があつた爲めであります。又、教育者になつて人を完全にするといふやうになつてからも、常に其の一の目的の爲めに全努力を捧げて居たのであります。此の考へが戦場にある間も、教壇にある間も、また如何なる迫害にあつても、常

に彼れの心に燃えて居たのであります。

フレーベルは千八百十一年に、自然科學の研究を目的として、再び大學に入つたのであります。すると恰度ナポレオン一世の戦役が起りましたので、フレーベルは志願兵として戦地に行つたのであります。其の間に於いても彼れは決して教育といふことを忘れなかつたのです。そして戦友の間に誰れか自分を信じ得る人がなからうかと探し求めて漸くにしてランゲタールとミッテンドルフの二人を得ました。この二人は後の仕事に深い關係を以つて居るので、殊にミッテンドルフはフレーベルを深く了解して、死ぬまでもフレーベルを助けた人であります。戦役から歸つて來ましてから、其の二人と共に、兄の子供や其の他に六十名許りの子供を預つて、大きな模範家庭を造つて、子供の教育に努力して居たのであります。

九、フレーベルの事業と其の迫害

このやうに、根本からフレーベルを了解する人もないではなかつたけれども、それは極めて小數な人でありまして、殊に上方の人は多くフレーベルを誤解をして居たのであります。其の爲めに折角造つた模範家庭も、幾ばくもなく外部の迫害の爲めに殆んど解散の運命に逢ふたのであります。フレーベルは常に自然を説き、自由を稱へて居た爲めに、又外面の事には餘り注意せない性質であつた爲めに、フレーベルの許に居る子供までがこれを真似て、或は頭髪を長くするといふやうなことが盛んに行はれました。その爲めに、時の政府は、フレーベルを危険なる人物である。さういふ集團は解散を命じた方がいと云ふやうに疑はれて來たのであります。これはフレーベルにとつて非常なる打撃でありまして、遂には僅に五名の生徒を餘すに至つたのであります。其の爲めフレーベルが其の家庭に關係して居ては益々迫害が

大になると云ふ處から、表面はパロツプといふ人に譲る事にして、自分は内部に隠れて居たのであります。然し彼れは、さういふ外部の迫害に挫折するやうな人ではなく、反つて力を倍にして、これよりもつと大きな計畫を以つて、大なる學校を建てやうと計つたのであります。そして學校は少くとも四種建てなければならぬ。其の一は父母のない三才から七才頃までの子供を養育する場所、二は普通人民の教育所、三には工業等の専門的學校、四には高等學術の豫備學校でありまして、この四種の學校が完成すれば、略完全な教育が得らるゝであらうと云ふ考へで、其の當時、教育上力を盡くして居たマイニンゲン侯の保護に依つて其の理想を實現する事になつて居たのであるが、これも他の人の妨害の爲めに果すことが出来なかつたのであります。

斯の如く、様々な迫害に遇つた爲めに、フレー

ベルは自己の理想を實現するには獨逸では駄目であると考え、遂にスイツツルに行つたのであります。何故スイツツルを撰んだかと云へば、一は自分の知己もあり、二には自分の非常に尊敬して居るペスタロツチの後を慕ふといふことは愉快であるといふ考へからであります。

十、フレーベルの教育思想

スイツツルから再び故國へ歸つて來ましたのは、千八百三十六年の頃で、其の頃は、もう餘程齡をとつて居たのであります。普通の人ならば、も早や子供などは、うるさいといふやうな年輩になつてフレーベルはこれから最も幼少な子供の教育を初めやうと考へたのであります。そして、子供は外面から助けをするよりは、内心から發達せしめなければならぬ。而も兒童の教育は、學校以外の幼少な子供から初めなければならぬ。又經驗によつて見ても、家庭がよくないと學校教育がよくない

いと云ふ事を覺つて、幼兒をよくするといふことが先づ急務であると考へたのであります。而も獨逸では子供を預る場所がない。それでは駄目である。教育をして神の道に一致する方法に於いて、子供を導くといふ場所がなければならぬと云ふ處から、遂に千八百三十七年に其の場所を建設したのであります。

以上申述べたやうに、フレーベルは飽くまで教育者としての天才を有つて居た人で、深く學問をした人ではありませんけれども、非常に進んだ思想を持つて居たのであります。故に今日の教育思想と餘程接近した處があり、従つて其の方法に至つても今日の方法に一致して居る處も少くはないのであります。初めて教師の職に就いた當時に於いても、教育は自然的に、近い處からだん／＼と遠い處へ進んで行くべきものであるといふ考へを持つて居ました。殊に地理に於いて最も巧みに、

其の理想を實現して行つたのであります。郷土科の如きもフレールベルによつて初めて行はれたものです。又、子供を出來るだけ戶外に遊ばしめて直接に自然界の影響を受けしむるやうに努めて居たのです。課業にしても、可成手でする仕事を與へ、或は庭を作り、草花を植ゑ、其れに咲いた花を父母に贈ることを樂しむといふやうな方面に力を盡くしたのです。其の當時にフレールベルの考へたのには、人間の生活を進めるには自然生活を保護して行くことが、最もよい手段である。又子供が花を親や教師に贈のは、子供の感謝を示す最もよい方法である。花を愛する子供は悪い人にはならない、花を愛する子供は自然、愛情、感謝といふやうなことを知り、天にある父を感謝するやうになると考へて居たのであります。この點はルソウの説に接近して居るのであります。別にルソウの書を讀んだといふ譯ではありませんけれど

も、偶然の暗合とも云ひ得やうと思ひます。

又、カイルハウに於いて家庭を作つて居た時には、子供にいろ／＼な勞働をなさしめて居ました。これは今日の作業主義と云はれ居る教育に外ならないのであります。人民の教育所を建てた時にも、普通の教育を成るべく制限して、網物細工であるとか園藝や手工などを多く行はしめて、其の残り時間を普通の教育に當て、始たのであります。フレールベルの考へでは、作業には少くとも二つの特長がある。それは、

一、直接に教授の材料を造ることが出來るといふこと。

二、造るといふことを好む精神を養成し、且つ造つたものに説明を與へられたいといふ希望を生せしめるといふことであります。

フレールベルの考へでは、人間は物を造るといふことを本體として居るもので、其の點が人の人た

る道であるとして考へて居ました。これが今日の所謂
作業主義と同一であります。

一一、フレーベルとペスタロツチ

最後に、フレーベルとペスタロツチとを比較す
れば、どういふ事柄が発見されて來るかといふこ
とを申上げて此の講演を了り度いと思ひます。

一、フレーベルはペスタロツチを非常に尊敬し
て居た爲めに、其の説も餘程とり入れて居たとい
ふことは事實であります。然し根本の性格に於い
ても、フレーベルとペスタロツチとは非常に似た
處があつたやうに思はれます。當に其の思想ばか
りではなく、其の境遇、其の性質までも等しくて
居たのであります。ペスタロツチは幼にして父を
失ひ、フレーベルは九ヶ月にして母を失ひ、又其
の生活も共に田園生活から始めて居ります。外貌
までが非常によく似逢つて居る。風彩の上らない
點、飾る事を考へない點の如きもそれでありませ

その爲めにペスタロツチは殆んど乞食のやうに云
はれ、フレーベルも、リーベンスタインの學校で
子供と遊んで居る時などは、よく、子供好きの馬
鹿老爺と云はれて居たのであります。

二、二人は共に人類の爲めに盡した點が一致し
た居るのであります。而も其の間に些の利益をも
考へない、寧ろ自己を犠牲にしてまでも其の事業
の爲めに盡くして居たのであります。思想上に頭
を使つて居る人には、よくある事ですが、二人は
共に經濟上の實地に就いては、極めて放任的であ
つて、事業の爲めならば費用をかまはずに仕始め
るといふ状態であつたのです。其の爲めに二人と
も財政の方面では非常に困難をして居たのであり
ます。

三、二人は共に、人の人たる點に深い考へを有
ち、鋭敏なる觀察を有して居たのであります。然
し個々の人物に對しては、二人ともに往々見誤り

があつた。殊にフレーベルは、婦人や子供に對しては、非常に強い感化力を持つて居ましたので、一度フレーベルに接した子供は決して先生を忘れなかつたといふ位であつたけれども、男子には屢々自分の説を無條件に信ぜさせやうとする態度が多かつた爲めに、反つて種々の悪感を惹き起さしめて居たのであります。故にフレーベルを根柢から信じて居た人は死ぬまでも彼れの爲めに盡して居ましたが他の友人は多く悪意を有つて居たので、ペスタロツチもこれと似た性質があつたので、自己の信ずる直観教授をナポレオン一世に對して、頭から説きつけたと云ふことが傳へられて居ります。

四、教育上の思想に於いても、非常に似た處がある。然し全然同じ點ばかりではありません。

ペスタロツチは親の教育に重きを置き、殊に母親の教育を餘程大切に考へて居たので、室内の教

育は子供に大なる感化があるもので、初等教育は母の室でしたいとまで考へて居たのであります。フレーベルは室内教育の價値を認めて居ましたけれども、其の他に社會や自然の感化が大切で母の室だけでは完全な教育は行はれないといふやうに考へて居たのです。

ペスタロツチは直観と云ふことに重きを置き、感覺から初めて思想に入らなければならぬと考へ、フレーベルは自分の力による發展といふことに重きを置いて居たのです。ペスタロツチの説を研究して居る際にも、どうも傳へると云ふ方の教授が多い、もう少し製作するといふ事を進めなければならぬ。手の仕事をもつと大切であると考へて居たので、その考へから、自分で幼稚園を作つた時は、いろ／＼な遊戯を發見したのであります。これ等はフレーベルがペスタロツチよりも、今日の新思想に近づいた人であると云ひ得るのであり

ます。

然しなが、二人ともに、自分の思想を論理的に明瞭に發表するといふ處までは至らなかつたので、たゞ漠然とさういふ思想に氣がついて居たと云ふに過ぎなかつたのであります。今日の人はこ

フレーベル主義と婦人

(フレーベル會第十七回總會ニ於ケル講演大意)

倉 橋 惣 三

總て世界の大きな出來事の裏面には、必ず婦人が潜んでゐると、屢々云はれて居ります。そして其の實例としては例の平家の滅亡、源氏の衰亡、或は佛蘭西革命に於ける王朝の衰微であるとかいふやうな事件を惹き來つて。これを説明しやうとするのであります。若しかういふ意味許りで、婦人が世界の大事件に與つて居るとすれば、婦人程世

れに明瞭なる心理學上の根據を與へる事に努力して居るのであります。今日の教育研究が益々進んで行くと共に、フレーベルとペスタロツチの思想も益々進められて行くこと、考へるのであります。(文責記者)

に厄介なものではなからうと思ひます、然しながら、轉じて、もつと明るい、愉快な眼を以つて歴史を見ましたならば、世に及ぼしてゐる婦人の力は、決してさういふ暗黒な事柄のみではなく、非常に尊重すべき、愉快な事件が澤山に見出されて來るのであります。殊にフレーベルの主義及び其の事業に關係した人々の歴史及び現在

を考へて見ますと、婦人の力の最も大なることが考へられて來ると思ふのであります。

今日はフレーベル先生の誕生の紀念日に際しまして、先生の裏になり側になり、其の事業を助け其の主義を盛ならしめた婦人達のことを、記憶に呼び起して見度いと思ふのであります。然し日本の婦人に就いては、即ち茲に御集りの方々がそれなのでありますから、こゝでは西洋に於けるさういふ婦人に就いてのみ申上げることいたします

ウキルヘルミナ

フレーベルの事業を知る上には先づ第一に記憶せなければならぬ婦人は、先生の初めの奥様即ちウキルヘルミナであります。先刻の御話にも御座いましたが、フレーベルは極めて不遇な、複雑な、境遇を経た人でありまして家庭の歡といふやうな面白味は殆んど味ふ間もなかつた位の人であります、其の不遇な先生を助け先生を勵まし、

そして幼児教育の事業を益々盛ならしめた人は、即ちこの第一の奥様であります。初め先生が、幼児教育に携はるゝ前にケイルハウといふ處で、若干の子供を預つて教育して居られた時でありました。此のウキルヘルミナに手紙を書いて、どうか自分の處へ來て、私の事業を助けて半生の伴侶となつて呉れないかといふことを申し送りました。處が、ウキルヘルミナは直ぐに承諾をしましたので遂に結婚の運に至つたのであります。もと／＼先生はウキルヘルミナとは面識な間柄でありまして、先生が伯林館に居た頃博物上の談話から知己になられたのであります。

ウキルヘルミナは伯林に於ける豪家の御嬢様で、どつちかといへば、華やかな生活を送つて居た人でありました。これに反してフレーベルは其の外貌と云ひ生活と云ひ、極めて粗末な、寧ろ變り者と云はるゝ位の人でありましたので、ウキルヘル

ミナの友人達は其結婚をとめた位でありました。實際今日でこそフレibelといへば世界の偉人でありませんが、當時では一介の貧しい理想家に過ぎないのであります。富豪の御嬢様が、さういふ人の處へ嫁しづくといふことは容易のことではなかつたのであります。然しウキルヘルミナは嘗て博物館で初めてフレibelに會つた時から、先生を理解して居りましたので、それ等の障害を排して進んで先生の許に來つたのであります。この人が先生の奥様となられたことは、フレibelの爲に非常に大な助けとなつてゐるので、寧ろ内助以上の助を與へてゐるといふことを忘れてはならないのです。單に精神上的の慰安といふ點ばかりではなく財政の上にも就いても非常に力を添へて居るのであります。夫人が先生の許へ來ました頃は、未だフレibelの事業は誠に微々たるもので、殊に財政上に於いては極めて困難をして居たので、ウキル

ヘルミナの持て來ました財産は、盡く其の事業の爲に費されてゐるのであります。

先刻の御話にもフレibelとベスタロツチとの類似點を擧げて比較された有益なお話がありましたが、共に其の事業の初めに夫人の財産を使ひへらして仕舞つたといふ點もよく似て居るのであります。妻君の財産を使ひ込むのが教育上の偉人になる法でもありますまいが、此の二人は此の可笑しな點でもよく似て居ます。

殊にウキルヘルミナは、極めてうるはしい感情を有つた方でありましたので、フレibelは始終其の慰安を受けて居たのであります。

私はウキルヘルミナから先生に送つた手紙を見たことがありますが、實に感情の濃やかな、愛情に満ち／＼た筆で、家庭の有様や、周圍の景色などを敘して、夫の心を慰めた立派な手紙であると思ひました。

然し悲しいことには、この奥様は齒五十八でなくなられたのであります。丁度この時に、先生はドレスデン巡回講演に行つて居られた留守中であつたのです。夫人の病勢が急に革まつて來ましたので、人々は先生の處へ急報しやうとしたけれども、我が夫は今其の事業の爲めに出張して居るのである、其の神聖なる事業を私一個のことです。でも妨害してならぬといふので、これを拒まれました。そして先生が、さういふ不幸があらうとも知らず、歸られ來られました時は、もう、起ち難き重患の人となつて居られたのであります。

ルキス

第二に擧げなければならぬ婦人は、フレールベルの第二の夫人、ルキスであります。先生は第一の夫人を失はれ、殆んど病氣にもなられた位に落膽されましたが、然し自分の事業の大なることを考へて、自ら元氣を恢復され、十二年の後に此のルキ

スと第二の結婚をせられたのであります。當時先生は六十九歳ルキスは三十六歳、世に珍らしい晩婚といはれて居ります。ルキスはその前からフレールベルの主義崇拜者の一人でありまして、一方からいへば先生の弟子であつたのであります。始め此の結婚にはケイルハウの人々は多く餘り賛成でありませんでした。果して、フレールベルにして遂に話が運んだのでした。果して、フレールベルは此結婚によつて寂しい晩年の慰藉者を得たのみならず、先生の死後其の事業の維持者として最も適任者を得られた譯でありました。即ち先生死後のフレールベル主義教育は主にミッテンドルフと此ルキスとによつて繼承せられたのであります。

ビュロー夫人

第三に是非記憶せなければならぬ人は、マレンホルツ、ビュローといふ伯爵夫人であります。この婦人もまたフレールベルの事業に極めて大なる力

を與へて居らるゝのであります。先生がレピンス
タインで學校を建てられて、子供と一緒に遊んで
居られました時に、丁度其時の地に湯治に来て
居た伯爵夫人が、フレーベルと相識つたのであり
ます、即ち先生にいろ／＼と教育上の質問を發し
たのであります、その時夫人は先生に對して、今日
の吾々の教育程詰らぬものはない、人間の天性を
破つた、寧ろ人を害ふものである。貴方はどうい
ふ教育に携はつて居らるゝですかと。フレーベル
は、之れに對しいろ／＼自己の理想を説かれまし
たので、夫人は非常に先生を尊敬する様になり、
それから様々の保護を與へて居られたのであり
ます。殊に先生の死後、其の事業を佛蘭西其の他
の國々へ傳布せしめたことは、主として夫人の働
きと云つてよい位であります。又其の他にもいろ
／＼澤山の仕事に殊に夫人によつて仕遂げられて
居るのであります。プロシアの政府から禁令され

てゐたフレーベルの幼稚園主義が、十五年後に至
つて、禁を解かれたといふことも、また一つに夫
人の力によるのです、又、吾々がフレーベルを研究
しますときに、最も大切の資料として見ることに
出来る、「フレーベル追想録」も此の夫人の著書で
あります、序ながら此書を英語に譯されたのもホ
レスマン氏の夫人で矢張り婦人の力によつて居
ります。

上に述べた人々は皆昔の人であります、新しい
人の中にも擧ぐべき婦人が決して尠くはありま
せん。

ヘンリツテ・シユラーデルと

エロノオア・ヘールウアルト

第四に新しい人で、ヘンリツテ・シユウラーデル
と云ふ婦人があります、この人はフレーベル先生
の又姪にあたる人です。ベルリンでフ
レーベル、ベスタロツチハウスを建て、其の長を

して居られた人です、昨年になくなりましたがフ
レーベルの主義に尠なからぬ効果をそへて居る人
であります。

これと似た人で、エロノア、ヘルウアルト
といふ婦人があります。フレーベルに關した著述
もあり、殊にマザーブレーに就いて、有益なもの
を書いて居られます。惜しいかな昨年の十月にな
くなられました。獨逸のアイゼナツハの人で、十
七歳の娘時代に、ケイルハウに居らるゝ伯母の處
へ行きましたとき、ふと新聞によつてフレーベル
の事業を知り、非常に感激をして、ケイルハウの保
姆傳習所へ入らうと決心しました。先づ願を出し
ましたけれども、丁度其の時は欠員がなかつたの
で許されず、再び願つても矢張り許されませんで
したけれども、婦人はどうして最初の希望おさへ
難くして、四度までも願を出したのであります。
斯くして漸く、婦人の爲めに居室を譲る人があつ

た爲めに其の傳習所へ入ることが出来たのであり
ます。その頃のケイルハウの保姆傳習所は不思議
なる教育をして居ましたので、朝早くに起きて、
遠い道を歩いてくるとか、バタを付けないパンや
砂糖の入らないコーヒを用ゐるとかいふやうな質
素なものであります、バタの付かないパンでも中
々たべにくいものです。がまして砂糖の入らないコ
ーヒはずゝ分厭やなものであらうと思はれますの
に、良家に人となつた婦人は、これにも尙打ち勝
つて、其の傳習を終え、遂になくなるゝまで幼兒
教育の世界的大立者とされて居た婦人でありま
す。フレーベルの書簡や、遺物を集めて小さなフ
レーベル博物館を建てたるもこの婦人の力であり
ます。

エンテツソリ

直接フレーベルの事業に關して働かれた人は前
に申した如くであります。が、間接に先生の主義や

事業を傳承し主張し擁護して居る人々は尠くはありません、現在、伊太利の人で、マリア・モンテツンリーと云ふ婦人があります、この人は初めローマ大學に入つて醫學士となり、白痴教育の學理を幼児教育に當て締めやうとした人で、後に再びローマ大學に入つて九年の間教育學及心理學等を研究し、兒童教育の上にななる刷新を興へた人であります。モンテツンリー教育の概要は前月の本誌にも掲げて置きましたので略御了解の事と思ひます。今やモンテツンリーの教育は世界の大問題と云つてよい位にその價值が認められ、プロシヤの如きは普通教育の内に、これを入れることが許され、其の他、瑞西、亞米利加、英吉利西等に於いても、其の主義の學校がだん／＼と増して來、ローマに於ては英語を以て、モンテツンリー教育法を教へる學校が出来た程であります、即ち此のモンテツンリー女史もフレーベル主義の間接の擁護者と云ふこ

とが出来るのであります。

マルタとハンナ・メルツケ

獨逸にマルタと云ふフレーベルの主義に熱心な人があります。これも非常な働き手として立つて居るのであります。又、カツセルの方にハンナ・メツケと云ふ人があります。この人も非常に熱心な人で、「フレーベル主義と兒童研究」と云ふ小さい本を出して居ります。

ブロー、スミス

米國には、スーサン・ブローと云ふ婦人があります、幼児教育に關するいろ／＼な本を書いて居りますが、就中、近著「幼稚園に於ける教育問題」といふ書が傳へられて居ります。又同國のクラーク大學の兒童研究部の長をして居らるスミス嬢の如きも幼稚園に興味を有す人であります。

其の外、一々數へますれば、ますます澤山にありますけれども、これだけの事實に就いて考へて

見ましても、フレーベル主義に盡くして居らるゝ婦人の如何に多く、そして其の仕事の如何に大であるかといふことを知り得やうと思ひます。

私は先日小河博士にお逢ひしました時、先生は「兒童保護の中心」といふ題で、兒童保護中心となるべき者は婦人であるといふことを、いろ／＼な實例を引いて皆さん御話しやうと云つて居られました。が、今日は不幸にして、其の御講話を拜聴出来

花と子供の興味

一 最近の實驗的研究

自然界に於ける様々の現象が、如何に子供の眼に映るかといふことは頗る興味ある問題である。屢々言ふ如く、子供の心は飽くまでも子供の心であつて、吾々成人の心を以つて子供の心を忖度す

なかつたのであります、然しいづれ又機會を得て是非ともお話を伺ひ度いと思ひますが、今日の私のお話も矢張兒童保護の大切な一部分の中心としての御婦人方を考へて見たのであります。

事實が斯うでありました。理想上の希望はいふ迄もありません。我國に於ける幼稚園教育の進歩發達の爲に御婦人方の一層眞剣に力を入れて下さることを願ひするのであります。

菅原 教造

るといふことは誤りである。近來は斯ういふ方面の研究が、だん／＼と盛んになつて來て、例へば雲であるとか、花であるとか、若しくは人形であるとかいふやうな事物が、どういふ意味に於いて最も多く子供の興味を惹くものであるかといふこ

とが實驗的に、飽くまでも、子供を本位として研究されて來たことは、大に喜ぶべき點であらうと思ふ。

如上の立場から、花に對する子供の興味を實驗した最近の研究は、千九百五年に亞米利加のカリシ、セーヤー女史(Miss. Alice Thayer)の發表したるものと、其の翌年に、アンゼリカ、シーズ(Angelica Seyz)と云ふポーランド人の發表したものとがある。そして後に出たシーズの實驗は、セーヤー女史の試みた質問を、其の儘ポーランドの子供に試みたものである、結び與へられた一の問題に就いて、二ヶ國の子供を實驗したことになる故に此の二ツの結果を比較研究すれば、尠くとも次の三ツの疑問が何等かの意味に於いて攻究されて來やうと思ふ。

一、國情を異にする子供は、其の型に何等かの差違を現すか。

二、國情及び教育の相違は、子供の心理に何等の特性を及ぼすか。

三、異なる國の子供と子供との間には共通した普遍性が存在するか否か。

シーズ氏は此の興味を以て、セーヤー女史と同一の質問を、ポーランドの首都ウォーソー(Warsaw)に於ける九歳より十三歳までの女兒三百九十七人に與へて、それ／＼實驗研究を施したのである。

二 子供に記憶せらるゝ花

三百九十七人の子供が知つたゐた花の名は、全體で百三十二種、これを數の上で云へば、平均一人の子供が十一種の花を知つて居た、それ等の答案を調査するときに先づ第一に考へられる事は、年長の子供程、其の興味が發達してゐると共に、數の上にも多くなつてゐると云ふことである。即ち九歳と十歳の子供は平均九種、十一歳は十種、

十二歳は十三種、十三歳は十五種、十四歳は十七種、十五歳は十六乃至十七種といふ現象を呈してゐる。これを亞米利加の子供に比較すると、其の數に於いてはポーランドの方の稍下位に落ちるけれども、其の質に於いては兩者は殆んど一である。この中で最も多く數へられた花の名を十種だけ掲げると、薔薇、堇、矢車菊、山百合、紫羅蘭花、さんしきすみれ、百合、瑠璃草、鬱金香、水仙の順序である、これを亞米利加の子供に比較すると薔薇と堇は共に最高位を占めて居る。然し「さんしきすみれ」は亞米利加の方は第三位に居るのにポーランドの方は第七位に下つてゐる。

三 子供の好きな花

子供の撰擇に任せて、最も好きな花を指摘せしめた結果は、薔薇、山梔子、百合、紫羅蘭花、瑠璃草、さんしきすみれ、矢車菊、水仙、接骨木の順序である。さて、何故さういふ花が好きかとい

ふ理由に就いては、何等の答へも與へない子供が多い。偶々「この花が好きですから好きです」私を樂しますから」といふやうな如何にも子供らしい答へが多いのである。然しさういふ答へは年長になつて非常に減じてゐる。これは思想や内省力の發達に伴ふ自然の結果と見るべきであらうその理由を與へない子供は、九歳より十歳までに八割を占めてゐるに、十一歳に於いて僅に二割へ漸次減少し十四歳に至つて零となつてゐる（に減じてゐるといふことは、子供の精神的發達を考へる上へ大に着眼すべき現象であらうと思ふ）。何故此の花が好きかといふ理由に答へた子供の多くは、花の香と美（主として色彩の美）を指摘してゐる、殊に香を主たる要素としてゐる子供は八割を占めてゐる、色を其の要素とした者は多くは少くとも四五種の違つた色の花を掲げてゐる。この事實は、子供の好きな色は單に一種に止まら

ないことを明にしてゐる。而して最も多く好まれる色は、白、青と薄紫、黄と赤といふ順序である。而もそれ等の花は皆、極めて華やかな、優美な色彩を持つてゐる花であつた。此の點はセーヤー女史の得た結果と一致してゐる。ポーランドの子供も亞米利加の子供と同様に、黄色の花を好まない、然し面白いことには、野生の花に對して反つて黄を好む傾がある。殊にポーランドの子供は、極めて明瞭にこれを言ひ現してゐる。其の理とする處は、如何にもおとなしいと言ふことにある。これを以つて見れば、これ等の女兒は質朴といふことに對して強度の憧憬を持つてゐるやうに思はれる。

形の美に就いては、香や色彩の美に於けるよりも遙に少い、僅に菊であるとか、蘭であるとかいふやうな形の面白いものに限られてゐる。

其の他は自分の家なり庭園なりを飾るに都合の

いいと云ふことも一の要素となつてゐる。百合や瑠璃草は主としてこれである。初春他の花に先きだつて咲くといふことが興味の中心となつてゐる場合もある。櫻草の如きはそれである。これを反對に最も晩く咲いて、他の花が凋んでしまつた後に、なほ生々としてゐるといふことが興味の中心となつてゐる場合もある、木犀草の如きはそれである、又、個人的の記念として、或る特殊の花を愛する子供もある。例へば、お父さまの墓に咲いたと云ふ理由で「ゲンシヨウコ」と云ふ花が好きですと云ふ子供も三人ある。

或る特殊の花を指さずに、漫然と花が好きですと答へた子供が全體の一割五分をなしてゐる。では、どんな花が嫌かと云ふ問に對して若干の子供は蕁麻、薊、莠草が嫌であると答へ、其の他は子供によつて、それ／＼違つてゐる、然し嫌だと云ふ理由は一般に、色彩の醜い爲めか、若しくは香

のない爲めである。この點もまた、亞米利加の子供と一致してゐる。

四 花に對する疑人

「花に靈ありや」と云ふ間に對して、八割六分強は、有りと答へ。二割一分弱は無しと答へ、残りの少數は「花に靈があるけれども、吾々の靈とは違ふといふやうな、不定な答へである。靈なしと答へた者は年長者よりも反つて幼少な子供に多い靈ありと云ふ答へが年長者に多いといふことは如何なる原因に基いてゐるか」と云へば、年長者は學校に於いて得た動物に對する知識を植物に類推したものと思はれる。

傷んだ花や、色褪めた花に對する感傷の情や、或は花の運命と、人間の運命とを對照せしめるといふやうな答へもある。就中面白いのは「花は靈を有つてゐます、秋になれば黄色くなつて、恰度自分の悲しい運命を訴へるやうに、うなだれて來

ます。」と云ふ答である。又「破れた花や凋んだ花を見た時に、どんな感じがするか」といふ間に對して、十三歳の女兒は「最愛な故郷に捨てられ、旅路で果ない最後を遂げる孤獨な少女を見るやうな感じがします」と答へ、又十四歳の女兒の答へに、凋んだ花は、恰度、全世界でも破る力を有つてゐると信じてゐた勇士が、其の實行に破れて、無念な死を遂げて行くやうな感じがします」といふやうながある。

「花は人間に似てゐるか」と云ふ間に對して、七割七分の子供は似てゐると答へ、一割四分は似ずと答へ、残りの若干は「知りません」と答へてゐる。似てゐると云ふ方の子供は多く、生物學の立場から見ると、花は人間のやうに食物をとり、呼吸をし、生長をするから人間と似てゐると云ふにある。一人の女兒は、花は自分自身の言語を持つてゐて、話をする事が出來ると答へ、六

人の子供は花の外形さへも人間に似てゐると答へてゐる。其の例證となつてゐる花は多く「さんしきすみれ」である。雑草の中に咲く堇は、影や卑賤な周圍に生活をしてゐる人間と似てゐると云ひ丈高く生長する鬱金香は、傲慢な人間に似てゐると云ふやうな答へもあれば、又「私は花も愛するし人も愛します、故に花と人とは似てゐます」と云ふ面白い答へもある。それから進んで、花も人も神に造られたものですから似てゐなければなりません。」と云ふのもある。似てゐると云ふ答に理由を附せないのが三十六人ある。

「花になり度いと思ひますか」と云ふ問を百六十七人の子供に與へた處、七十八人は、花になり度いと答へ、六十人はなりたくないと思へ、残り二十九人はこれに答へなかつた、成り度いと云ふ方で新鮮な空氣の中に住む花の幸福を理由とするものが三人ある。茲に注意すべき點は、自由や新

鮮な空氣に對する憧憬は、特に都會で生長した子供に多いといふことである。スウキトな香を持つてゐると云ふことを理由とするものが十二人、綺麗な麗であるからと云ふのが十八人「聖母マリアが百合を愛されましたから、百合になり度い」と云ふのが一人「花のやうにあどけない、無邪氣なものになり度い」と云ふのが二人、花のやうに人に愛され度いと云ふのが三人、ばらのやうに有用な者になり度い、ばらはいろ／＼善いものに作られるから」と云ふのが一人ある、その他極めて詩的な理由を與へた子供も若干ある。例へば「私はどんなに花になりたいと思ふでせうか曉の美しい光りは玉なす露にたいよひ、そして私の衣を飾ります」と云ふ答へや、或は「私は子供の時によく花になつた夢を見たことを憶へてゐます。若しも花になつたら悲しいことも苦しいこともなくて、さぞ幸福だらうと思ひました。もしまたあの薔薇や、赤い

げんげや、瑠璃草のやうに綺麗になつて愛せられ
度いと思ひました、然し終には、さういふ澤山の
希望が一にまとまつてしまつて、獨り董だけが私
の眼にも理想にも残つてゐました。」と云ふやうな
答へが十五歳の女兒から得てゐる。

花になるのが嫌だといふ方の子供には、かうい
ふ詩的性情を持つてゐる者はなかつた更り、生に
對する理解が比較的進んでゐるやうに思はれる、
其の中で十二人は、花は何時でも摘みとられて死
んでしまふから、と云ふ事を理由とし、四人は到
底不可能な事だから望まないと言ひ、他の四人は
神は吾々を人間に造られたものだから花にならう
と思はないと答へ、二人は花は無用なもので人間は
有用なものだからと答へてゐる、この事實は子供
に於ける、生の歡びと自己保護の本能とを説明し
てゐる。

五 花と子供の遊戯

子供の遊戯生活に於いて、花は非常なる勢力を
占め、その遊び方も極めて多い、此の實驗によつ
て見るも、全體の八割一分強は遊戯に於ける花の
必要を示し、これを否定せる答は僅に一割四分強
に過ぎない。残りの三分強は不明瞭な答である。此
の遊戯の中心は花環や花束を造ることである。其
の他の用法は子供の境遇や教育によつて、非常な
差異を有つてゐるけれども、概して年長の女兒は
花を蒐集してそれを干し、或はそれを寫生すると
いふやうなことに興味を有ち、年少の女兒は自分
の頭や、人形の頭にさして、それを飾ることに興
味を有つてゐる、宗教的性情を有つてゐる子供は
花を以て祭壇を飾ると云ひ、藝術的な傾向を持つ
てゐる子供は、室内の裝飾にすると云ひ、センチ
メンタルな子供はまたそれ／＼違つた方法を答へ
共に自分の將來を暗示してゐる、こゝに注意すべ
き事は、花遊びを好む子供と、好まない子供との

間には一つの典型的な相違が介在して居るといふことである、好まないといふ方の子供は、自己の境遇上、自然物に接觸した経験がないやうな子供に限られてゐる、一人の子供の答へに、嘗つて花を持つて遊んだことがないばかりでなく、花環にした花を見るのも厭である。と云ふのがある。

五 花に關する子供の迷信と昔譚

花に關する迷信、昔譚及び傳説を言ひ現した子供も尠くはない。

迷信の中で最も普通なのは、「やぶにらみ」で其の觸るれば毒せられると云はれてゐる爲めである、四瓣のげんげと五瓣の接骨木は幸福を持つて来る水ぶくれのした時に、仙人掌の汁をつければ直ぐに癒はる、瑠璃草の花紛が目の中へ落ちると、世界中の寶が見える、花束の夢を見ると家族に死人があるなどがその主なるものである。

昔譚及び傳説は子供に極めて強い印象を與

へてゐる、子供はそれ等の話を物語ることに興味をもち且つ其の花の起原を説明しやうと努める、十一歳の女兒(非常に貧しいは)蒲公英の話をしてゐる、「ある處に、お父さまもお母さまもない、貧しい孤兒が居ました、彼女は深山の奥をさまよひながら、どうぞ私に死を與へて、お父さまやお母さまの處へやつて下さいといつて、神様に御祈りをしてゐました。するとそれを御聞きになつた神様は彼女を蒲公英の中へ入れて魂を天に誘つて行かれました。」と云ふのである。

最もよく知られてゐる迷信は、羊齒と云ふ花は年に一度、六月二十三日即ち聖シヨンの夕に咲いて、其の花を見た者は誰れでも幸を得、寶を發見すると云はれてゐる事である。

百合は最初に、貧しいながら善良な孤兒の墓に咲いた花で、其の一つ／＼の花冠には「L'AVE MARIA」と書いてあると信せられてゐる。

山梳子は天に登つた或る少女の涙から咲いたもので、彼女は極めて愉快な楽しい天國に登つたけれども、矢張り自分のお母さまや、小屋のやうな貧しい家や、故郷の野や谷が戀しさの餘り、遂に泣き初めた。その涙から咲いたもので、涙の落ちた處は何處でも山梳子が咲くも云はれて居る。

一人の女兒（十四歳）は乳母から聞いた「さんしきすみれ」の傳説を語つて居る。ある處に仲のいい二人の兄弟がゐた。其のお母さんは悪い心の繼母でした。其の繼母にも二人の子供がゐた、繼母は嫉みの餘りに義理のある二人の兄弟を殺してしまつた。それで「さんしきすみれ」の上部にある二瓣が黒いのです。と云ふのは上部の二瓣は殺された二人の兄弟を意味し、下部の三つの花瓣は繼母と其の子供との二人を現はしてゐるのである。水仙に就いての話は「ある處に水の中に入つて空想にばかり耽つて居た人がありました。神様は

それを罰する爲めに、其の人を花にしてしまひました。」と云ふ物語をして居るのが二人ある。

六 結 論

これを要すれば。

一、花は子供の間に非常なる興味を惹かれてゐるもので、而も年齢の増加や、理想や智力や審美的感覺の發達と相伴つて其の興味が擴大されて行く。又、花を愛する最初の要素は其の香と色彩の美なるに、基て居る。子供は斯して色彩感覺の發達を助け、次第に記憶と、聯想と、象徴との働きを進めて行く。

二、子供の多くは花の靈を認め、花の蒙つた損傷や、惡戯に對しては、同情的に是れを感傷するものである。此の心を教育上を利用して、子供の破壊的性情を抑制し、高尚なる感情の陶冶に資することが極めて大切である。

三、花に成り度いと思ふか。の問に對する答案

を考察すれば、其の肯定者の理由は主として、太陽、新鮮なる空氣及び自由に對する憧憬より出て居るといふことは明かである、實際にさういふ生活をして居るといふ理由で花を羨望してゐる答すらもある。又、歩む事が出来ないといふ點で、花を憐んで居る答へもある。かういふ感情は殊に、田舎に生長して、教育の爲めに都會へ出て居る子供に多い、灰色な都會の建築や冷いスクールベンは、子供を壓迫する事が如何に多いかを示して居る。

子供の衛生

これまでは、其の季節に從つて、子供の衛生にはどういふ注意が入るかといふことを、切れくにお話して來ましたけれども、それでは讀物

四、花に對する興味が発達して行くといふことは、取りも直さず、自然に對する子供の感動性を現はして居るものである、故に子供の周圍を努めて美化して置くといふことが、兒童教育家の忘れてはならぬ仕事である、休暇の間は可成、田舎に生活せしめ、野や森や、庭園に遊ばせることを忘れてはならぬ。

以上述べたシーズ氏の説は、頗る其の當を得た意見であつて、教育上大に力說せらるべき根本の問題であらうと思ふ。(完)

醫學士石塚保吉

としては面白いかも知れませぬが、然し眞當に子供の生理を研究して、完全な發育を助けて行くべとするには、ものたりぬ憾みがあらうと思は

れますので、これからは少しく順序を立て、秩序的に御話し度いと思ひます。この小話が、眞に子供の爲めを思ひ、子供の爲めに盡さるゝ方々にとつて、幾分の伴侶となることが出来ますれば私わたくしの幸とする處であります。

一、健康なる子供

子供の衛生や疾病に就いて御話しをする前に、先づ健康なる子供に就いて御話しして置く方が便宜であらうと思ひます。健康なる子供の状態を知るといふことは、後に御話しをする子供の衛生や疾病の御話しに物差を興ふるやうなもので、小兒科の醫師には勿論、一般に子供の發育を心する人々にとつても、決して無用のことではなからうと思ひます。餘り面白くない事柄ではあるけれども、簡單に誰れにでも判るやうなことだけを少しく御話しに置きます。

第一 體重 標準となるべき子供の體重を知る

といふことは、子供の發育の状態を調べたり又病氣が進行期にあるか恢復期にあるかといふことを知る上に、非常に必要であります。夫故吾々小兒科の醫師は常に體重計を備へて、子供の體重を計つて居るのであります。日本人の體重を統計的に調べたものは澤山ありますけれども、其中三島博士の御調になつた例によりますと。

初生兒の平均體重

男 三〇〇〇(七八八匁)

女 二九〇〇(七七一匁)

になつて居ります。處で面白いことには、生後二三日の間は、生れがけの體重よりも、一〇〇乃至二〇〇を減じ再び増加して來て、一週間位で略前の目方に復し、それから段々と増して行くのであります。そして四ヶ月後は初めの二倍位になり一年で其の三倍、四五年目で五倍、十三年目で十倍位になるのが平均の量になつて居りますこの標準に従つて居る子供は普通の發育を遂げて居る、

ので、これよりも下にある子供は、何處かに故障があるものと考へていゝのです。前に申した生後二三日の間は別として、其の後にあつては、子供の目方が段々と増して行くのでありますが、其増し方は初めは可なり速く後には次第に少なくなります。假令ば初の四ヶ月は一日平均二十五瓦位増しますが次の四ヶ月には十五瓦位、其後の四ヶ月は八瓦内外となります。此關係から遠く離れた子供は決して健康體ではありませんが一應醫師の診察を受ける必要があります。

第二 身長——これも三島博士の例によりますと。初生兒の平均身長は大凡

男 四九センチメートル（一尺六寸二分）

女 四八同（一尺五寸八分）

と云ふ事になつて居ります。これも體重と同じやうに少しづつ増して行つて、一年の終りには二十五乃至三十センチメートルを増し。二年の終りには

十、三年には七センチメートルを増し、その後は年々四五センチ位づつ増して、五六年位になると初生兒の二倍、十五年位で凡そ三倍程になるのが常り前の子供とされて居ります。こゝに妙な事は身長増加は病氣に關係せないと云ふことであります。體内に疾病があつても身長はずんぐ増して行く。故に病氣をしますと、體は瘦るけれども丈は増して行くのが普通であります。ですから、體は細いけれども丈が高くなつて行くので、この子供は丈の高くなる性質で、健康な子供であるといふやうな誤つた憶測は許されないのであります

第三 頭圍——題のまわりの大きさは、チヨ

ツと考へると、別に他の發育に關係のないもので頭の大小は其の子供の體質によるものであるやうに考へられますけれども、決してさうではありません。或る特別の病氣に對して非常に意味のあることで、是非知つて置く必要があります。

頭のまはりを計るには、額の少し高くなつた處と、後頭部のとび出てゐる處とを標準にして測定するのであります。其の標準尺は、

初生兒	男	三三、三	女	三三、三
六ヶ月の終	男	四二、三	女	四二、三
一 年	同	四五、四	同	四五、四
十 年	同	五一、五	同	五一、五
十五 年	同	五三、六	同	五三、六

これが當り前の發育を遂げて居る頭圍であります。頭圍の大小は病氣と非常な關係がある事で、早く骨の固くなる病氣であります。頭の發育が止り其の結果として腦の發育を害するばかりではなく、いろいろな弊害を及ぼして來ます。又頭圍が非常に大きい時は、頭の中に水が溜り、所謂腦水腫となる疑がありますから。頭の大きさは非常に注意する必要があります。

第四 胸圍——これも頭の圍りと同様に、發

育の状態を知つて置くことが大切であります。胸圍を計るには、乳の高さで計るのです。こゝに大切な事は胸の圍りと頭の圍りとが面白い關係を有つてゐる事でありませう。初生兒は胸の圍りが小さくて、頭の圍りが大きい（約一乃至二センチメートル）其差が段々と小さくなつて來て、一年の終り頃には兩者が等しくなつて來ます。この状態が暫らく續いて、今度は胸の方が大きくなつて來る。其の標準尺を示すと、

初生兒	男	三三、	女	三二、
一ヶ月	同	三六、	同	三六、
六ヶ月	同	四二、	同	四一、
一ケ年	同	四五、	同	四四、
五ケ年	同	五〇、	同	四九、
十ケ年	同	五九、	同	五八、
十五年	同	六九、	同	七一、

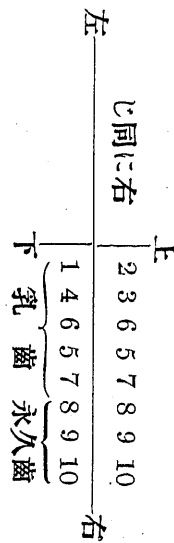
これが日本の子供を量つた平均數であります。然

し注意すべき事は、十三年目からは女の胸圍が男よりも大きくなつて來る事でありませう。それは、女の乳胞が發育して來るからであります。

第五 生齒——これは身體の發育と極めて密接な關係を有つて居るもので、生齒の狀態を見て直ちに一般の發育の狀態を定める人すらもある位に大切なものであります。言ふまでもなく、齒の早く生へるのが一般に發育が良いので、遅いのはよくないのであります。哺乳兒の時代に於いて病氣をするか、營養が悪いからすれば、必ず齒の生へ方が遅いのです。一番早く生へる子供は生後四ヶ月目位で、遅い子供になると一ヶ年以上になつて漸く生へるのであります。

誰れでも知つて居らるゝやうに、齒は二度生へるもので、子供の時に生へるのを乳齒と言ひ、大人になつて生へる、二度目の齒を永久齒と云つて居ります。齒全部が一度に生へるものではなく、

一定の順序を持つて居ります。即ち右側の半面を圖に示しますれば、



の順序で、詰り下の第一門齒が最初に生へ、次に上の第一門齒が生へ、以下數字に示したやうに犬齒を一本飛ばして第一小白齒に行き、それから犬齒が生へ、最後に第二小白齒に行くものであります。これは左右とも同時に生へる。永久齒は乳齒が落ちてから生へるもので、終生變らないものであります。

前に申したやうに生齒の狀態と身體の發育とは非常に深い關係のあるもので、これによつて發育の狀態を知り、これによつて離乳の時期を定めることも出来るものでありますから、大に注意すべ

き點であります。

第六 體の發育狀態——生れてすぐの子供は

體が如何にも、やはらか、締りのないもので、自分で自分の體を保つて居ることが出来ないものであります。これが當り前の發育を遂げて居る子供であると、生後四ヶ月目位で、頭を眞直に保つ事が出来、半年程になると體をきめることが、出来六ヶ月目位には坐ることが出来、一年の終りには立つことが出来、いよいよ歩みを始めるのは大體十三ヶ月目位からであります。

第七 脈膊——子供の脈は大人に比べると非

常に早いものであります。生れてすぐの子供は一分間に百三十六位あるのが普通で、一年位の子供は百二十、四年位で百位、十年で八十六位に下つて來ます。大人は大體七十内外を上下して居るのです。そして子供は大人のやうに規則正しくはありません。早くなつたり、緩くなつたりして、常

に不定で、又何かに驚いたり、恐怖を感じたり、するやうな刺戟に會ふと、脈が高まつて來ることもあります。

第八 呼吸——これも大人に比して非常に早

いもので、其の平均數は

初生兒 三五乃至六〇位

一年 二五——二七

二年 二四——二五

六年 二〇——二二

十年 一八——二〇

大人 一六位

これが普通の狀態にある呼吸であります。これも脈と同じやうに、子供の間は極めて不規則で、緩急が定まつて居ないものであります。

第九 體温——これも大人に對して幾らか高

いもので、外國の書物などに依ると、大人に比して一度位高いもの、やうに書いてあるけれども、

實際日本の子供に就いて調べますと、一度までは高くありませんが、幾らか高いのは事實であります。大人は大體三十六度四五分位で、子供は三十六度八九分位の處を昇降して居るやうで、一度以上高い子供は日本の子供としては餘りないやうに思はれます。

第十 消化——子供は生れてすぐから哺乳期間の間までは總の作用が御乳を消化するに適したやうに出來てゐるものであります。故に此の間に於いて、乳以外にいろいろな物を與へるやうな事があつてはならないのです。殊に澱粉質に至つては、最初三ヶ月位の間は全然消化力がないと云はれてゐる程であります。これは大に注意する要があると思ひます。

子供の胃の内容の大ききを知つて置くことも、非常に大切なことで、殊に人工營養を與へる場合には是非知らなければなりません。其の標準數は

一月	90 <small>センチ方</small>
二月	100 „
三月	110 „
四月	125 „
五月	140 „
六月	160 „
七月	180 „
八月	200 „
九月	225 „
十月	250 „
十一月	275 „
十二月	295 „

この程度で發育して行くものでありますから、この大きさに適當しただけの乳を與へて置けば間違が起らないのです。

乳の消化時間に就いては、前號に述べて置きました如く、母乳なれば二時間位、牛乳であると二時間半乃至三時間位かゝるものです。故に乳を與へるには、前の表に従つて、年齢を考へて分量と時間とを定めることは、育児者の決して忘れてはならない事柄であります。

研究録

各幼稚園にて實際幼児に就て、研究調査せられた結果を互に承はることは非常に有益なことであります、諸方からそういふ資料を頂き度いと思つて始終願つて居ますが、中々御秘藏で容易にお示し下さいません。幸にフレール會總會へ陳列して下さつた幾つかの御研究を、こゝで御披露致します。但し印刷の都合上、餘り複雑な表は、其の最有益なるに拘はらず省略しましたことは甚だ残念であります。御出品下さつた中で誌上に載せ得ません分は、右様の次第からと悪からず御諒承を願ひます。尙之れを機會として諸方からどしどし其の御研究御調査の結果をお頒ち下さることを願ひます。

○空、風、雨、雷に關する幼兒の想像

(明治四十四年末調査)

静岡市 静岡幼稚園

年齢	性別	問 空は届かすれば届くものなる哉
(六)	男	一八
(六)	女	一五
(五)	男	一四
(五)	女	一〇
(四)	男	三
(四)	女	〇
		〇
		〇

何れとも答へ得ぬもの

計

問 風はどうして吹き来る哉

風は空気が動くものと 思ひ居るもの	八
何處かで團扇であふぐ と思ひ居るもの	一
風の神様が大きな袋か ら出してくれると思ひ 居るもの	二〇
何とも考へ得ぬもの	三
山から吹いて来ると思 ひ居るもの	三
計	三五

問 雨はどうして降るか

雨は水気が上りて又夫
れが落ちて来ると思ひ
居るもの

いくらでも唯天より降 るものと思ひ居るもの	一〇
曇りて来ると降るもの と思ひ居るもの	一二
何れとも考へなきもの	五
計	三五

問 雷はどうしてなる哉

雷は火と火とがぶつかつ てなると思ひ居るもの	五
火の付きたる獸が天をと ぶと思ひ居るもの	九
計	一四

天で鬼が大鼓をたいて
飛びめぐると思ひ居る者
天で樂隊をすと思ひ
居るもの
何とも答へのなきもの

計 三五三〇二二一七二三一八

○新人園當時と一年後との幼児の心

理狀況の比較調査

東京市 城東小學校附屬幼稚園

第一 四十四年四月入園兒童ニツキ調査

セシモノ

(感情) 新入幼兒 男兒 三十四名
女兒 三十四名

敬慕

父	一三	兵隊	八	天皇陛下	七
朋友	七	兄	二	祖父	二
伯父	一	母	一	殿様	一
海軍	一	大將	一	加藤清正	一
大山元師	一	伊藤元師	一	校長先生	一
鬼	一	桃太郎	一	大名	一
大人	一	銀行人	一	先生	一
不明	一				

怖	三	鬼	二〇	犬	三
お化	二	狐	二	虎	一
獅子	一	兵隊	一	田舎ノ祖父	一
仁王様	一	三日小僧	一	伯父	一
盲人	一	火番	一	猫	一
鷹職	一	芝居	一	不明	八
愛慕	一	朋友	一六	父	一
母	一九	赤ン坊	四	祖母	二
姉	四	弟	二	先生	一
下女	二	伯母	一	店員	一
兄	一	不明	二		
小僧	一				
嫌惡	一				
下女	二				
父	三	朋友	一〇	雇人	四
書生	二	姉	二	弟	二
伯父	一	祖父	一	祖母	一
嗜好	一	盜賊	一	不明	二
王子	一				
蜜柑	五				
羊羹	二	豆	八	パン	五
葡萄	一	刺身	四	魚	四
牛肉	二	汁粉	二	キントシ	一
桃	一	香物	一	餅菓子	二
バナ	一	ダシ	一	味噌汁	一
		栗	一	餡	一
		林檎	一	天麩羅	一

胡瓜	一	唐茄子	一	不明	三
嫌味					
香物	七	豆	六	甘キ菓子	八
大根	三	魚	三	煎餅	二
竹ノ子	二	林檎	二	辛味	一
苺	一	鯖	一	餅菓子	一
バナ	一	刺身	一	百合根	一
葱	一	玉子	一	豆腐	一
餡	一	海苔	一	焼魚	一
堅パン	一	西洋菓子	一	赤色菓子	一
ピストット	一	不明	一四		
嗜好	林檎	餡	玉子	ハナ、一	苺、一
生薑	一				ゲンゴ
(知識)					
數ノ觀念					
十迄	九	九迄	一	八迄	三
七迄	三	六迄	五	五迄	一九
四迄	三	三迄	一〇	二迄	五
一迄	五	不明	二		
色ノ觀念					
青色黄色赤色正	一五	青色不正	三五	黄色不正	二
青色黄色不正	一三	不明	三		
父母ノ氏名					

父母正 一〇 父正 二二 母正 六
 自己年齡 正六五(七才一七 六才三三 五才一〇 四才五)
 自己ノ住所 正七七 不正四三 不明一八
 備考

(敬慕) エライ人 (恐怖) コワイ者 (愛慕) スキナ人 (嫌惡) キライナ人 (嗜好) スキナ食物(嫌味) キライヒナ食物(數の觀念) 加減ヲナシ得ル數ニ止メタリ(色ノ觀念) 三原色ニ就キテ問フ

第二 明治四十四年四月入園兒童ニ
 ツキ翌年三月ニ調査セシモノ

敬慕 (感情) 幼兒數 男兒 三十三名 女兒 二十八名

敬慕	天皇陛下	二三	父	一六	兵隊	三
	加藤清正	二	天照大神	一	兄	二
	大名	一	伯父	一	神武天皇	一
	母	一	東郷大將	一	朋友	一
	不明	八				
恐怖	お化	二	鬼	五	一目小僧	三
	蛇	二	狼	二	父	二
	雷	一	巡査	一	象	一
	牛	一	魂	一	神樂	一
	狐	一	獅子	一	兄	一

不明	柿	西洋菓子	豆	葱	鯛	海苔卷	アンプ	玉子	嗜好	妹	姉	母	小僧	朋友	嫌悪	不明	弟	兄	母	愛慕	不明	盜賊	祖母
二	一	一	五	一	二	三	三	二	一	一	一	一	四	一	九	一	一	三	一	六	六	一	一
	洋食	刺身	辛キモノ	チッコ	パン	汁粉	甘煎餅	魚	香物	不明	乞食	父	弟	兄			先生	下女	父			母	虎
	一	一	一	一	一	二	二	三	八	一	一	一	二	七			一	二	一			一	一
	窓月	密柑	唐茄子	茄子	香物	蝦	林檎	牛肉	豆		盜賊	祖父	祖母	下女			伯母	祖母	姉			朋友	猿
	一	一	一	一	一	八	一	二	三	五		一	一	二	六		一	一	五			一	一

自己ノ住所	自己ノ氏名	自己ノ年齢	青色不正	色ノ觀念	十五迄	二迄	八迄	三迄	五迄	數ノ觀念	(知識)	桃	蓮根	バナ、	甘キ菓子	餅菓子	汁粉	キンヒ	慈姑	煎餅	豆	嫌味
正二六	正五九	七才二八	四一	一	一	三	六	一八	一八			一	一	一	二	二	一	一	一	三	九	
不正二三	不明二	六才一〇	青色黄色赤色正一八	十六迄	十二迄	九迄	四迄	十迄	一四			乾魚	鯿	ハンペン	辛キモノ	牛肉	山葵	烏賊	姉	玉子	香物	
不明二	不明	五才四	黄色青色正二	一	一	二	三	七迄	一四			一	一	一	二	二	一	一	一	三	八	
	不明	不明		十四迄		一迄	六迄	七迄	七			不明	西洋菓子	金柑	昆布	唐茹	梅干	蕪	章魚	葱	魚	
	三			一		一	三					四	一	一	一	二	一	一	一	一	四	

森の幼稚園 (五)

七、研究会

深井君が主任になつて開かる、研究会は、此の幼稚園の進歩の源泉といつてもよいのです。毎週水曜日の午後二時間位づゝ開くことにきめてあります。皆さんが研究の必要は氣づいて居る人々のみでありますけれども、實際保育上の用務の忙しいのと、餘り問題が多くて手のつけ方の見當に迷ふといふ様な處から、自分々々では思ふ様にはかどらない。そこを周密に懇切に、極く氣のきいた指導をしてゆく深井君の手腕は誰れも感服して居ます。此の會が初められてから随分久しいことになりましたから深井君の執つた方針もいろ／＼ありますが、此の間フレーベルの「マザープレイ」を研

究した時でした。皆は一人々々英譯の「マザープレイ」を持つて居て自分々々豫め読みもし考へもして置くのです。深井君はフレーベルの原書と英譯と、及び昔譯された日本譯とを並べて置いてそれにブローや其他の著書から豫め調べて置いた草稿を持つて、すん／＼研究を進めてゆくのです。今時分「マザープレイ」の研究でもあるまいといふ方もあるかも知れない。又私達の中でもそういふ異議も多少あつたのでした。併し深井君は自分に確信がありますと言つて、四ヶ月程此の研究を續けたのです。深井君の考へでは斯うであつたのです。一體此の節いろ／＼の人が新らしい考へとか何とか言つてフレーベルの缺點を批難

S
K
生

する。殊に此の「マザーブレイ」などはそういふ人から批難ばかり受けて居る處が、そういふ新らしがる人達の中には、自ら「マザーブレイ」をよく研究したことがない處か、一度も讀んだことが無いといふ人もある。それで居てブレイベルは古いなど、放言にも程があるのである。それから又ブレイベルをよく研究して、其の著書や論述を多く調べて居る人でも、「マザーブレイ」は讀んで居ない人が往々ある。成る程ブレイベルの思想の骨子は「人の教育」であらう。併し私の（深井君の）考へでは、一人の人の思想は其の議論よりも、寧ろ其の作物の中に完膚的にあらはれて居るものである。殊に、學者的といふよりは却つて詩人的と評すべきブレイベルの思想は議論よりも作物に残りなく現はれ易いのである。然るに幸に此の「マザーブレイ」があるのでないか。吾人は此の書の深い研究と玩味とによつて初めてブレイベルに

對するしみぐとした了解が出来るのである。勿論「マザーブレイ」の唱歌を今日の殊に我國の子供達に其のまゝ用ゐるようとするのは間違ひである。併し幼稚園の教材としては假令古物になつて仕舞つても、幼稚園研究の教科書としては愈々貴重ないつも新らしい意味に富んだものである。よかれ悪かれ、此の中にはブレイベルの思想が具體的にあらはされて居る。之を充分研究しないでブレイベルの教育主義を批評しようとするのは大膽の甚しきものである。深井君は斯ういふ説で、此の書の研究を薦めたのでした。私達の中にはまだ「人の教育」を熟讀してゐない人もありました。又若し方の中には初めの方を少し讀みかけたが、如何にも分り難いので途中でやめて居る人もありました。私なども一度は讀んだものゝ、あの書の根底になつて居る哲學上の議論などは、博物學上の書物を多く讀みつけた頭には六かしくて、半分解つ

た様な、半分解らない様な風で居たのでした。處が「マザーブレー」を読んで見ると可愛らしい自然詩を読んで居るようなもので、兎に斯く文字そのままで既に面白い。それを深井君が其の深いフレール研究の蘊蓄によつて一々解剖し説明し、只たわいがない様な子供歌の中から、フレールの思想を面白いようにすん／＼繰りほどいて聞かせて呉れます。短い時間で、あの本の中の歌を悉くは研究出来ませんでした。主なものを通り研究して、今迄はたゞ抽象的に空に呑み込んで居たフレール主義のいろ／＼が、明瞭によく解つて來ました。初め深井君が頻りに此の書を薦めた意味も初めてよく分つたのでした。

金曜日の詩の會のない週の午後には深井君が、新刊の著書や雑誌から幼稚園に關係のある様な問題について紹介して呉れます。此の幼稚園は先生の名と共に世界の保育界には知り合ひが多くて、

其の諸所から新出版物など澤山送つて來ます。又先生の書齋には兒童に關係のある有名な歐米の雑誌が幾種もとつてありますので、深井君はそれ等を忠實に目を通しては有益と思ふ論文や報告などを我々に紹介して呉れるのです。時には先生自身で紹介して下さることもあり。そして此の時は大きな著述を秩序的に研究してゆくのは違つて深井君が大體の主旨を括つて話して呉れますので、それ／＼批評も出れば意見も出る。實際のことなどは直ぐ試験的に實施して見ようといふことになり。ます。

斯ういふ風に水曜日のも金曜日のも基礎的にも實際的にも大層有益であり、ます處から、私達は皆非常に樂みにして居ります。又此幼稚園外の方でも特別に熱心な御希望から毎會必ずお出になる人が七人程有ります。深井君は米國のクラーク大學に三年ばかり居て、歸りにベルリンのベスタロチ・フレール・ハウスで暫く研究して來た人です。

雜 録

フレイベル會總會

本會第十七回總會は四月二十一日午前九時半から東京女子高等師學校附屬幼稚園に於て開かれました。當日は晩春新緑の好晴で、午前は殊にすがすがしく快よい日でした。來賓、會員、特に當日の聽講の方々など定刻には堂に充ちて、靜かな併し如何にも楽しい會でした。花で飾られたフレイベル先生の肖像はその百三十回の誕生日を、此の東洋の子供を愛する國で、斯くも床しい人々に祝されるを如何にも／＼喜んで居らるゝ様に見えました。先中川會長が開會の挨拶を述べられ、安井幹事より前年度の庶務會計の報告あり、次に大瀨甚太郎氏の「フレイベルに就て」と題する有益な講演がありました。其の筆記は本誌に掲げてあります通り、廣くフレイベルの生涯、思想、事業に涉つて、當日に最もふさはしき且つ感興深きお話でありました。次に小河法學博士の「兒童保護の中心」と題する講演がある筈でありましたが、博士は公務の爲遠く御出張中で如何とも已むを得ず。殊に博士のお差支へが總會の前たつた一日になつて通知せられた爲、更めて他の方にお願いしても御都合悪く、是非なく倉橋幹事が代つて講演することになり、急の思ひつきで、「フレイベル主義と婦人」と題する話がありました。之れも本誌に載せてあります。講演後遊園のこゝかしこ

に備へた茶菓に閑談をする人々もあり、別室に陳列した陳列品を觀る人々もあり。隨意に散會しました時に正午。

此の日の來賓の中には理學博士坪井正五郎氏、ドクトル富士川游氏其の他知名の士教育に關係ある雜誌諸新聞社の方々も多く見えました。會員としては高濱きみの、月田しづの兩保姆が遙々大坂から出張來會せられたのを始めとし、新瀉、足利、古賀、成田、埼玉、横濱、其他東京市外より志ある來會者方が尠くありませんでした。遙々お出下さつた方々に何のおかまひも申上ませんでした。ことは甚だ失禮でありました。

又陳列品には教育博物館、久留島武彦氏、學習院女學部附屬幼稚園、東京女子師範學校附屬幼稚園、坂本小學校、東城小學校、誠之小學校の各附屬幼稚園、二葉幼稚園及び特に静岡幼稚園其他からいづれも有益なる御出品をなさつて下さつたことは誠に會の厚く感謝する處であります。之れ等の出品中研究事項に關する表等は成るべく本誌上に掲載さして廣く其の益を頒ち度いと思つて居ます。

静岡縣保育會大會

同會は四月二十八日同縣清水町に於て開かれました。午前には縣内諸幼稚園より提出の問題につき有益なる討議あり、午後は倉橋本會幹事の講演ある豫定でありました。其の會況は本誌一切に間に合ひませんでした。が、來月號に詳しく御報道する積りであります。

京坂神三市聯合保育會大會

毎年盛大にして有益なる會合をせらるゝ京都大坂神戸三市の聯合保育會大會は今年は六月二日を期し神戸市に於て開催せらるゝ筈之れ亦本誌上に於て詳しい御報道をする積りであります。

お願ひ

春季は各地保育會に於ていろいろ御會合のある時であります。其の御様子のお通信を得ることは、私共の是非希ふ處であります、どうぞ多少なりとも御知らせを願ひます。

本會夏期講習會

本會主催の保育に關する夏期講習會は本年も八月一日より七日迄東京女子高等師範學校内に開催の豫定であります。講師其他詳細は次號に廣告致します。

小兒救急手当法講習會

本誌廣告欄に廣告の通り、此の必要の問題についての講習會を本月十五日より開きます。醫學的救急法の知識なしで子供の世話をして居るのは随分亂暴といへばいへる話で、現に時々困却すること、自らも残念に、子供には氣の毒な思ひをすることがあります。多數の方々は是非々々御來會を切望するのであります。

○本誌定價

- ◎一冊 郵稅共金拾一錢
- ◎六冊前郵稅共六拾錢
- ◎拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎郵券代用一割増

○購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

○本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます
(イ) 庶務上保姆紹介に關する件をも含むの御手紙は東京市小石川區久堅町七十四番地フレーザー會事務所宛

(ロ) 會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、雨森劍宛

(ハ) 本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下千駄谷八七八倉橋惣三宛

明治四十五年五月一日印刷
明治四十五年五月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豊多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八

印刷者 東京市本所區番場町四番地 登

印刷所 東京市本所區番場町四番地 登

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地
フレーザー會